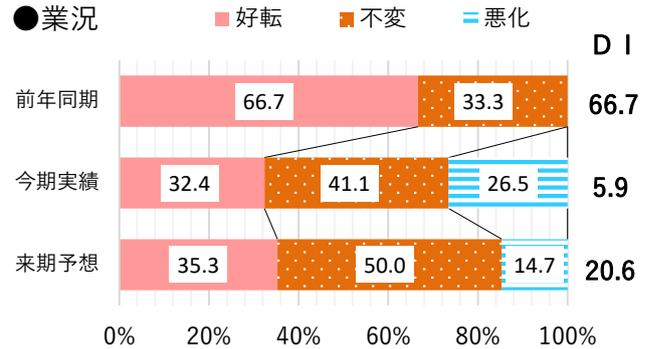


観光業

業況、売上、採算

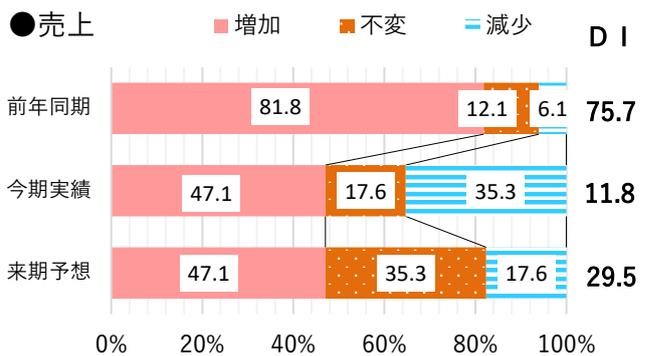
今期（2024.4～6）の業況判断DIは5.9で、前年同期（2023.4～6）と比べ60.8ポイントと大幅に低下しました。

来期（2024.7～9）は、業況の好転傾向が強まると予想しています。



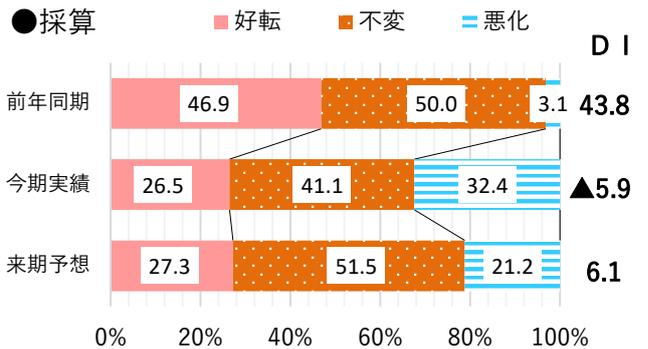
今期の売上DIは11.8で、前年同期と比べ63.9ポイントと大幅に低下しました。

来期は、売上の増加傾向が強まると予想しています。

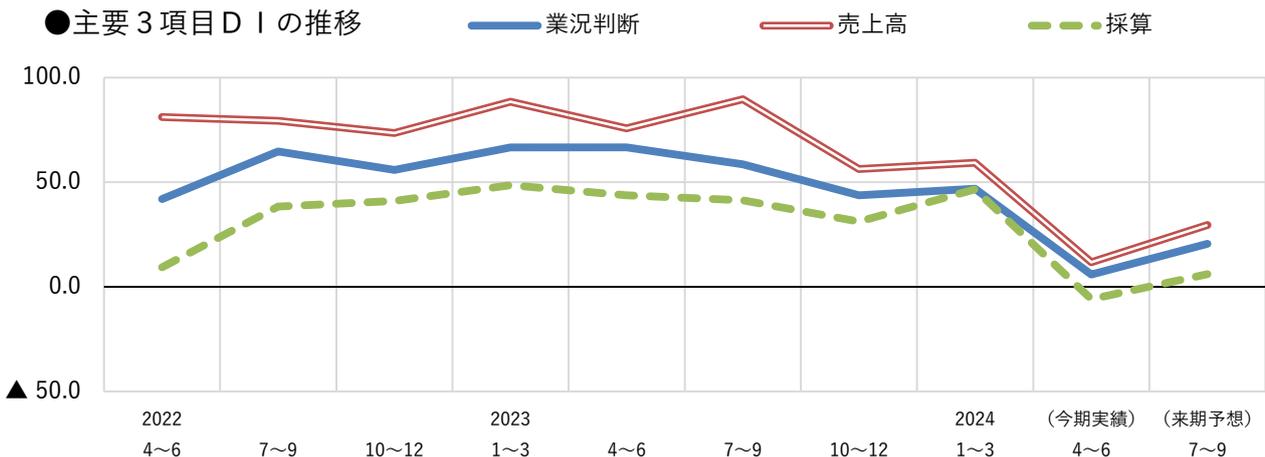


今期の採算DIは▲5.9で、前年同期と比べ49.7ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の好転を予想しています。



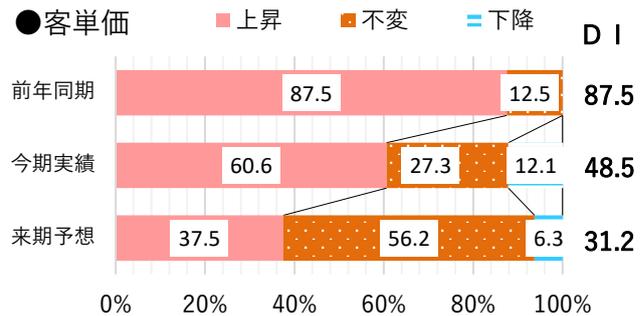
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

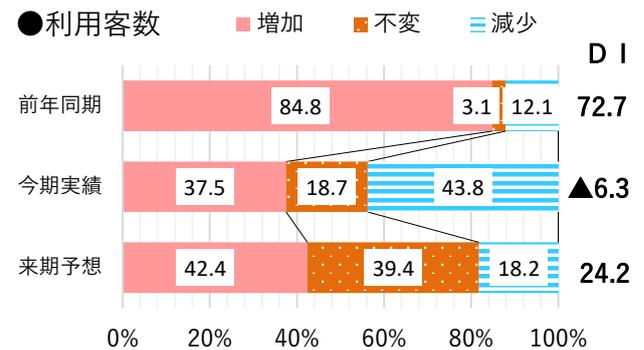
今期の客単価DIは48.5で、前年同期と比べ39.0ポイントと大幅に低下しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



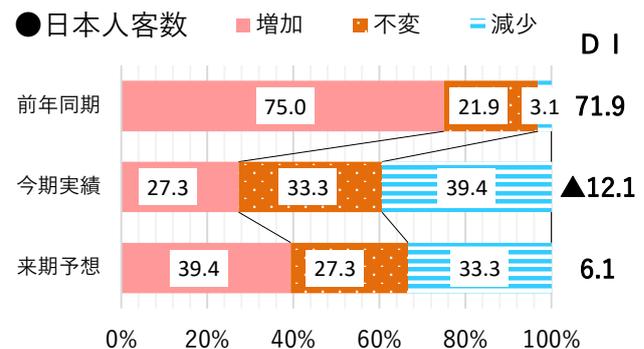
今期の利用客数DIは▲6.3で、前年同期と比べ79.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、利用客数が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。



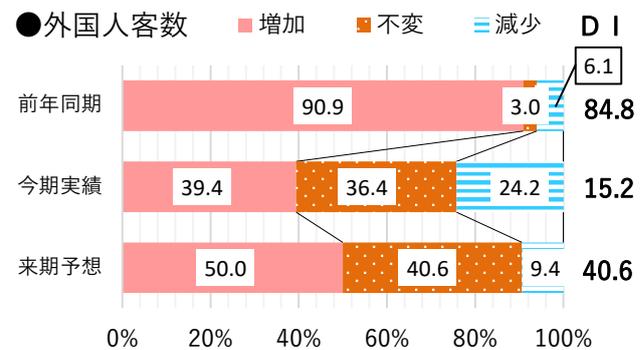
今期の日本人客数DIは▲12.1で、前年同期と比べ84.0ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、日本人客数が増加し、プラスに転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは15.2で、前年同期と比べ69.6ポイントと大幅に低下しました。

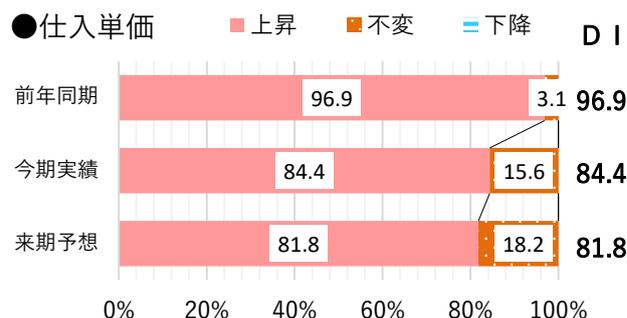
来期は、外国人客数の増加傾向が強まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは84.4で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

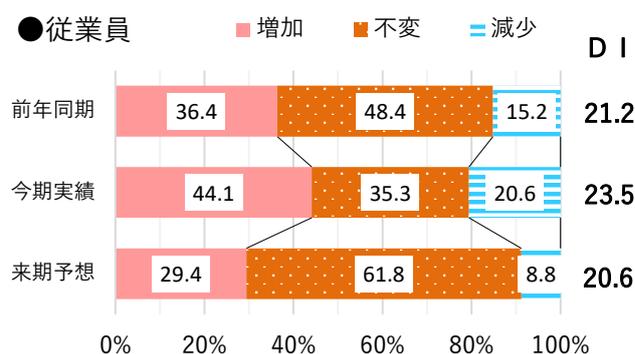
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



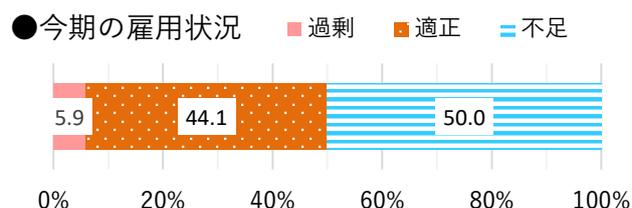
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは23.5で、前年同期と比べ2.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.9%、適正であると回答した企業の割合は44.1%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」という回答で、26.4%を占めました。回答全体では50.0%が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	2
	適正	9
	不足	4
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	6

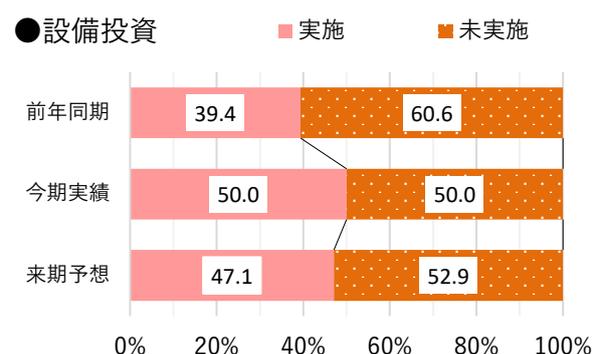
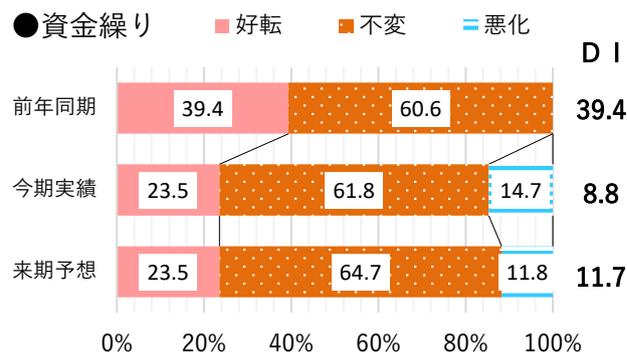
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは8.8で、前年同期と比べ30.6ポイントと大幅に低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向に大きな変化はないと予想しています。

設備投資を実施した企業の割合は50.0%で、前年同期と比べて10.6%上昇しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「サービス設備」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は47.1%で、減少を予想しています。

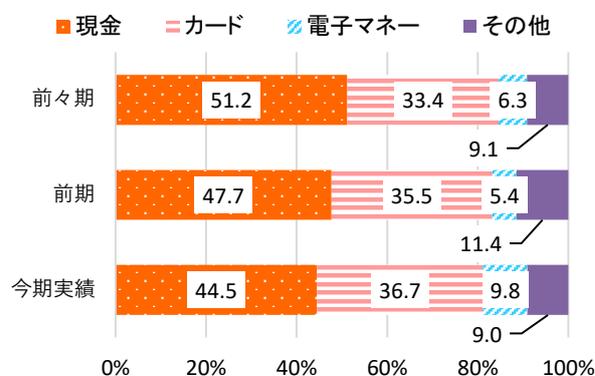


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で44.5%、2位がカードで36.7%、3位が電子マネーで9.8%、4位がその他で9.0%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、掛売り、クーポン券、金券、銀行振込、OTA（Online Travel Agent）決済です。

●今期利用客の決済方法(%)

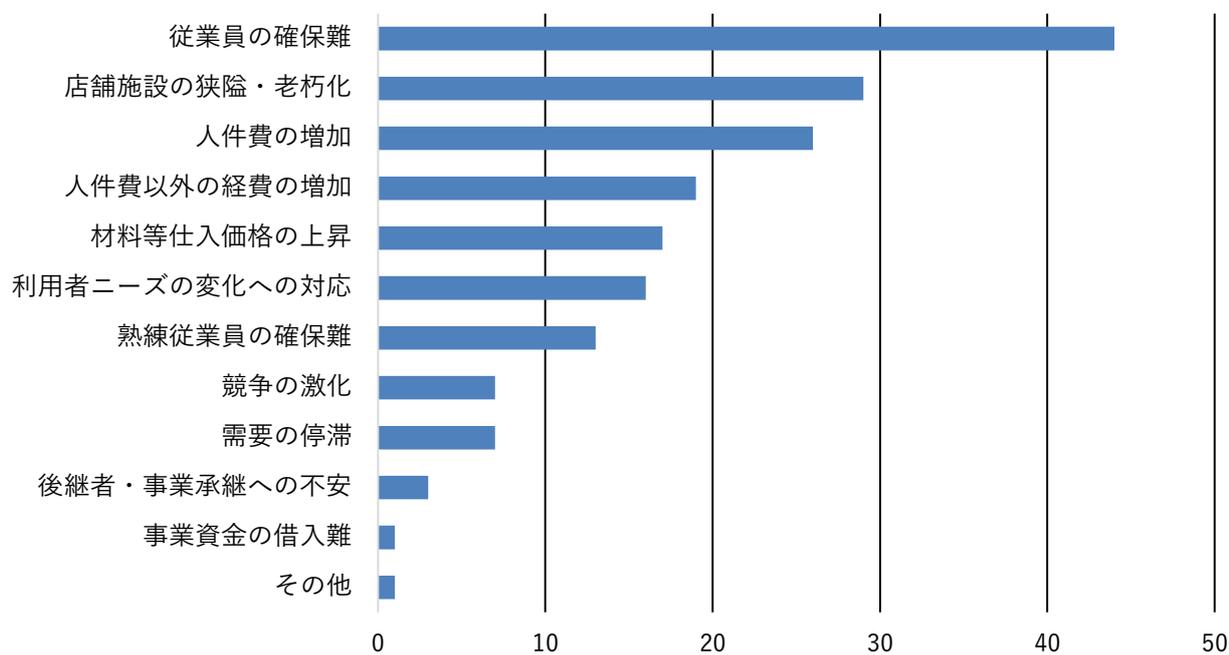


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は62.1%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 昨年同期はコロナ禍の行動制限が解除直後で、観光振興の公的助成などが加わり、観光に勢いがあった。今期は勢いが無くなり、諸物価の高騰などで国内客の来店、購買意欲にかなりの減退が見られ、販売単価も低下している。昨年は増加していた韓国からの観光客がやや減少し、購買意欲も落ちている。現状はいずれもさほど大きくない減少幅だが、先行きを懸念している。原材料の高騰により、販売価格を上げたことも、購入意欲を減退させた可能性が高い。コロナ禍の頃と比べると商機には恵まれているが、人手不足で十分な対応が出来ず、売り逃しが多くなっている。観光業なので、現在は年中無休で営業しており、定休日の設定などの対応策を検討しているが、更に商機を失う可能性を懸念している。人手不足問題は、個々の企業では如何ともし難い問題なので、国や地域で強力な対応策を実施して欲しい。(土産品)
- 設備投資(施設、外構工事、駐車場等)を行い、補助金を受給したが、償却の負担が大きい。(土産品)
- 海外客は増えているが、国内客は減少している印象がある。(土産品)
- 原材料生産者が不足し、原料不足の状況にある。(土産品)
- 不調だった昨年の反動が大きく、好調だった。(土産品)
- 店舗の認知拡大により、売上が増加した。(土産品)
- 売上高は前期と同程度で推移している。(土産品)
- 休日を増やしたため、売上が減少した。(飲食店)
- 国内客の動向は昨年並みだが、インバウンドが低迷しており、特に中国人観光客の戻りが良くない。札幌のホテルが供給過多のため、安価での販売が目立ち、観光客は札幌に流れている印象だ。(ホテル)
- 仕入価格、人件費が上昇したため、商品単価を引き上げた。幸いインバウンドの利用は増加したが、トレンドに影響されているため、安心はできない。(ホテル)
- 弊社は元々インバウンドの利用が少ないが、今年は特に少なかった。4～5月の国内客の減少も影響し、厳しい経営状況だった。(ホテル)

- 客室平均単価の上昇により売上が増加したが、物価高による仕入価格の上昇と、業務過多による人員不足が課題だ。(ホテル)
- ゴールデンウィークが前年比で不調だった。インバウンドの利用が冬期と比べ急落した。(ホテル)
- 人材確保難と経費の増加が課題だ。(ホテル)
- 予約がコンスタントに入っている。(ホテル)
- 仕入価格が安定しない。(ホテル)
- 仕入価格、人件費は昨年につき上昇している。設備のメンテナンスのため休業があり、売上が減少した。競合となるホテルが乱立している。(コテージ・ペンション)
- ゴールデンウィークの来客が思いのほか伸び悩んだ。燃料を始めとする価格高騰により、旅行等の意欲等の意欲が鈍化したのではないかと推察する。(社会教育)
- 好調だった昨年と比べ、利用客が減少した。(レンタカー)
- インバウンドの利用が好調だった。(レンタカー)
- 前年同期と比較し、売上、利用客ともに増加している。(水運業)
- 会社知名度の向上により、売上が増加した。(娯楽業)

[来期の業況について]

- 今期同様、前年同期に比べて大幅な来店客、売上高の減少の恐れは少ないと見ているが、国内外共に引き続き、勢いが徐々に減退して行く予想している。値上げによって売上高が維持できているので、今後は出荷数量の減少、製造面でのコストアップの顕在化、事業効率の低下、ひいては採算の悪化も予想する。観光最盛期を迎えるが、人手不足に加えて夏の暑さで個々の社員への負担が増加し、業務意欲の減退、更なる人手不足など難しい局面が続く。綱渡りの事業運営を余儀なくされるものと覚悟しているが、対処はできない。(土産品)
- 海外客の増加、国内客の減少はしばらく続くと思われる。(土産品)
- 円安が続くと思われるので、インバウンドに期待する。(土産品)
- 新事業の取り組みが始めるため、好転を見込む。(土産品)
- 今期と同程度の推移を見込む。(土産品)
- 販売施設の建設を予定する。(土産品)
- 原材料不足の状況が続く。(土産品)
- 北海道の観光シーズンに入るため多忙となるが、休日を増やしたい。(飲食店)
- 国内の団体、ツアー客が堅調だと思われる。清掃やサービスの人員に欠員が出ると、労働の負担が増えてしまうのが悩み所だ。(ホテル)
- 客室平均単価の上昇による売上増加と、仕入価格の上昇、業務過多による人員不足が続く。(ホテル)
- インバウンドのトレンドに影響されないようにしたいが、不安定な状況が懸念材料だ。(ホテル)
- 売上が減少する要因はないが、異常気象の影響が心配だ。(ホテル)
- 2019年度実績並みのインバウンドの回復を見据える。(ホテル)
- 円安の影響もあり、今期の好況が続くと思われる。(ホテル)
- 引き続き仕入価格は安定しないと思われる。(ホテル)
- インバウンド需要は増加するが、国内需要は減少すると思われる。(コテージ・ペンション)
- 物価上昇による旅行等への意欲減退は夏も続き、引き続き厳しい状況が見込まれる。(社会教育)
- インバウンドの利用が好調だと思う。国内景気次第で日本人による売上も期待できる。(レンタカー)
- 繁忙期にあたり、乗船客数、売上の増加が見込まれる。(水運業)